

10 年夏山合宿報告書(表銀座隊)

目的：読図力強化

山域：北アルプス表銀座縦走コース(中房温泉～燕岳～大天井岳～槍ヶ岳～上高地)

メンバー：芦田直之(CL) 吉川浩行(SL) 天野広(装備) 伊藤千佳子(食糧) 金子清
竹内幹雄(気象) 亀山誠(地形・車) 町田修(車) 沼崎祥久(渉外、会計)

8 月 7 日(土)曇り時々晴れ

6:43 中房温泉登山口 7:20 第一ベンチ 8:00 第二ベンチ 8:45 第三ベンチ 9:28 富士見ベンチ
10:08 合戦小屋 11:30 燕山荘 12:30 燕岳 13:30 燕山荘

前夜に刈谷を出発して松本に向かう。深夜に松本の予約していたタクシー会社に到着。ここで仮眠をして翌朝、タクシーで登山口のある中房温泉に向かう。登山口付近の駐車場は早朝から満杯状態になっており登山口周辺はたくさんの登山者で賑わっている。準備をして出発。たくさんの登山者の列に続いて急登を進む。登山口では肌寒いくらいだったが出発して 20 分程で汗ばんできたが、しばらくして第一ベンチに到着、休憩している間に汗が引いてくる。気持ち良い。そして出発。天気は曇り空で歩くには丁度良い、そして芦田リーダーが読図のクイ



ズを出してくる。あるポイントに到達すると地図上で現在地の確認をメンバーで行うのである。今回の合宿目的の「読図力の強化」である。そんな雰囲気の中で、やがて合戦小屋に到着。たくさんの登山者が休憩している。ここでは「名物？」のスイカが売られている(写真)。休憩を多めに取り出発する。途中からサブリーダーの吉川さんがピッチを上げて一足先に燕山荘に向かう。今日のテント場を確保するためである。残りのメンバーはこれまでと同じ歩調で歩いていく。やがて展望

が開け稜線に出ると燕岳が見えてくる。お花畑(写真)を横に見ながらさらに進むとやがて先行の吉川さんが見えてきた。こちらに向かって「OK」サインを出している。テント場が確保されたようだ。燕山荘に到着である。さっそくテントを張って燕岳のピストンをする。登山道脇にはコマクサが群生していて花崗岩の岩山を登っていくと頂上である。ここでは 360 度の展望が開けている(写真)。しばらく景色を楽しんだ後、テント場に戻るとテントの数はさらに増えてテント場は満杯状態になってきた。そして、夕方までゆっくりとくつろぎ夕食の準備をしながら本日の行動を終えた。(竹内 記)



8 月 8 日(日)曇り時々晴れ

5:55 燕山荘 6:20 読図 6:55 大下りの頭 7:40 読図 8:20 一本 9:10 大天荘 9:25 大天井岳 山頂 9:45 大天荘 11:05 ビックリ平 12:05 一本 12:31 亀山さんが赤岩岳山頂を探す間、巻き道上で待つ 12:50 亀山さんが再度赤岩岳山頂を探す間、巻き道上で待つ 13:22 読図 13:45 ヒュッテ西岳

テント場を後に歩き出すとすぐに前方遠くに槍ヶ岳がみえ、これから二日間の行程を頭に浮かべながら歩を進める。さらに左手かなたの雲上に富士がみえ、さすが日本一の山である。歩き出して 30 分くらいたったところで、芦田リーダーより地図とコンパスで現在地を求めよう指示を受け読図を行い、解説を受けた。さらに約 1 時間後に 2 回目の読図を行う。その後、大天井岳山頂に進むための大天荘への道と大天井岳を巻く道の分岐に差し掛かる。巻き道を通って進むものと思っていたが、山頂まで行くことになり、非常にきつい道を登って行った。なんとか大天荘に着いた後は楽な登りで山頂に達し、みんなで握手のち集合写真を撮った(写真)。大天井岳を下り、大天荘・大天井ヒュッテ前を通過して西岳に向かう。西岳前の赤岩岳の巻き道を進みながら、日本百高山制覇を目指す亀山さんが赤岩岳山頂登頂のための登山口をさがすが、見つからず、2 度斜面を登ったが、山頂に達することはできず。一旦あきらめて西岳ヒュッテのテント場に向かった。テント設営後、竹内さん、芦田さん、沼崎の 3 名が目前の西岳山頂を目指し 10 分程

度で登頂。亀山さんは一人で再度赤岩岳登頂にチャレンジしに行き、無事登頂した(西岳から進むと登山口の標識が見つかった)とのこと、そのあと西岳山頂まで登ったあとでテン場まで戻ってきたヒュッテ西岳のテン場は真正面に槍ヶ岳がそびえ、背面には常念岳がそびえるという絶景のポジションで感動的で、みんなで槍ヶ岳を見ながら宴会を行うというぜいたくな時間を過ごした。ただ、槍ヶ岳へ続く上り下りの激しい東鎌尾根全体がみえ、翌日ここを縦走すると思うとほんとに登りきれぬのか不安になった。(沼崎 記)



8月9日(月)

5:45 ヒュッテ西岳 6:25 一本 6:55 水俣乗越 7:15 一本 7:50 長いハシゴ(亀山さんと合流) 8:30 一本 9:10 大槍ヒュッテ
10:05 槍ヶ岳山荘 10:55 幕営完了 11:35 槍ヶ岳登頂開始 12:00 登頂 12:38 槍ヶ岳山荘

前夜から断続的に小雨が降り、起床時は霧雨。しかし、テントの撤収作業前に霧雨もやみ、一部青空が見えるようになった。朝、朝食を全員でとると亀山さんは朝少し早く赤沢山に向かい(5:25)、後から合流するというので残り7名で5:45にテン場を出発した。東鎌尾根は水俣乗越までどんどん下る。コースは左右に少しジグザグした切り立った尾根で、槍ヶ岳の姿や周辺の山の眺望、コース自体が変化があって全く飽きない。

出発から約2時間、長さや角度がさまざまな梯子が連続する最後の垂直の「長いハシゴ」(写真)を越えているときに亀山さんが合流。聞くと、赤沢山を約1時間で往復して6:45にはテン場を出発されたいらしい。さすがに速いと一同感嘆。このあとはそれほど急なところもなく、順調に進む。槍ヶ岳山荘に到着すると、まずは表・裏銀座両隊用に3つのテン場の確保のために山荘の受付に行く。テン場は6人テント用までの区画しかなく、V8がはれるかどうかかわからないと言われた。結局、受付の人が薦めて確保してくれた場所は一番山荘から遠いうえに狭かったので、より近くてなんとかV8がはれそうな場所とその近くの場所に変えてもらって幕営した。ザックを置いて、槍ヶ岳登頂に向かうがガスっていて山頂が見えない。明日も晴れるかわからないし、20分程待っても駄目そうなので少し曇ったまま登ることにした。芦田さんは晴れていないなら登頂しなくていい、とおっしゃって一人山荘で待つとのこと。亀山さんを先頭に沼崎さん、伊藤と続き7人で登頂に向かった。亀山さんが足の置き場所などを指示してくださって、全員登頂。最後の梯子を上ると、山頂についた実感から思わず声が出る。感謝をこめて全員と握手。山頂からの眺望はないが、下を覗くと下の槍ヶ岳山荘がかすんで見えて高度感を感じる。20人ほどがひしめいている狭い山頂で急いで記念写真(写真)を撮り、



下りの梯子の渋滞をしばらく待って下山。下山の恐怖感を心配していたが、さほど怖くもなく降りられた。山荘に戻ると、芦田さんが裏銀座隊を出迎えることができ今テン場にいると話してくれた。私たち表銀座隊は早速山荘の中の食堂で登頂の祝い酒(ビール、日本酒etc)を買って祝杯を挙げる。そこで今回の山行を振り返っていると、裏銀座隊が前を通り過ぎて槍ヶ岳登頂に向かっていった。1杯飲むと、いよいよテン場での大宴会へ。しばらく我々だけで飲んでいたら、途中で裏銀座隊が加わり、通路をはさんで上に幕営した2人組の男性も交えて16時過ぎまで宴会が続いた。

夜は金子さんが持ってきてくれた星座早見盤をみながら、金子さん・芦田さん・天野さんらと星空教室をしようとしたが雲がかかってきたのであきらめた。ところが、いよいよ寝ようとしたときに外から帰っ

てきた竹内さんが「すごく星空がきれいだ」と教えてくれたので、再度外に出てみると先ほどとまるで違うこぼれんばかりの星空。フリースを着ても寒いという気温だったが、白く濁った天の川がわかる満天の星をしばらく観察して就寝した。(伊藤 記)

8月10日(火) 快晴のち雨のち曇り

05:28 槍ヶ岳山荘 06:20 水場 07:30 大曲 08:45 二の俣 09:45 横尾 10:50 徳沢 11:50 明神 12:43 上高地バスターミナル

起床すると満天の星空だ。昨日の夜に見た天の川はもうしずんでいる。食事の後のまだ暗いうちに槍ヶ岳を見ると、頂上にヘッドランプが見える。もう登っている様だ。よく見ると岸壁に取り付いている人もいる。「下山前に槍ヶ岳に登りたい」と言う人もいたが、時間の都合で下山を開始する。快晴の基歩き始めると、富士山が「フレーフレーみんな」と応援してくれる。播隆窟を過ぎ、槍沢の源流を越え水場で一本取る。大曲、二の俣、横尾まではハイスピードで高度を下げて行く。横尾からは若干のアップダウンはあるものの、ほとんど平坦な道となり、コミュニケーションルートとなる。しかしそれもだんだん飽きてきて、早くゴールに着きたい気持ちが大きくなる。明神を過ぎ、バスターミナル直前で大粒の雨が降り出したため、ダッシュで到着する。タクシーの予約時間に間があるためキャンセルし、客待ちのタクシーで駐車場へと向かった。回送してある車にザックを積み、温泉で汗を流した。(天野 記)

所見

【行動】8日はテン場が埋まる心配がなかったため、読図に重点的に取り組むことができてよかった。しかし、まだ自発的には地図を見てもらえようには至っていない。本来、読図に慣れるまでは、先を急がず、頻繁に立ち止まってでも地図と地形を見比べながら進む必要があるだろう。(芦田)

【食糧】小久保さんの7月集会でのレシピ紹介を参考に、ちょっとチャレンジングなメニューにした。

- ・じゃがりこのポテトサラダ：全く違和感ないポテサラができた。塩コショウを追加した方が良い。
- ・パスタ with あえるだけソース：パスタの湯切りが難しく時間がかかると伸びてしまうので工夫必要。
- ・雑煮：朝ごはんでも一人もち3つ。簡単にできるし、朝でも食べやすい。

全体として及第点。少し荷物になるが、塩・胡椒程度の調味料は持参した方がいろいろリカバリー(残ったご飯を塩むすびにするとか)がきいていいと思う。

【装備】

- ・包丁は、新品を購入するか、今あるものを研がないと使用しづらい
- ・槍ヶ岳山荘では、V8 テントは不向き(テンバが6人用までしかない)。他のテンバでも可能性あり。
- ・新しいガスバーナーで火の調整が難しいものがあるので注意が必要(急に火が大きくなり、危ない)

【渉外】

・安曇観光タクシー、南安タクシーは沢渡までの車両回送サービスを行っている。ただし、登山口までのタクシー利用が前提。回送料金は9000円、回送先駐車料金は受取日1日分500円

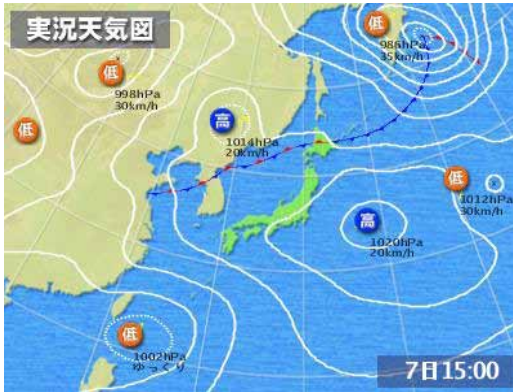
・安曇観光タクシーでは予約をしていたこともあって、会議室で仮眠できた。

・上高地のバスターミナルからのタクシーは、大人数の場合、ジャンボタクシーを利用すると割安になる。4人乗りの普通車は4000円、9人乗りのジャンボタクシーは7000円。ただし、ジャンボタクシーは多くは走っていないので偶然来ていないと利用できない。

会計報告

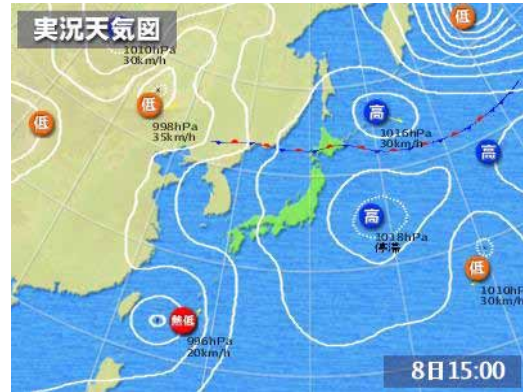
収入		支出	
会費		食糧代	20,720 円
11,800 円 × 8 名	94,400 円	テント場代	12,500 円
4,500 円 × 1 名	4,500 円	車・高速代・ガソリン代	33,800 円
		回送代	12,700 円
		タクシー代	15,800 円
		温泉代(400 円 × 8 名)	3,200 円
		通信費(公衆電話, 携帯電話)	180 円
合計	98,900 円	合計	98,900 円

気象



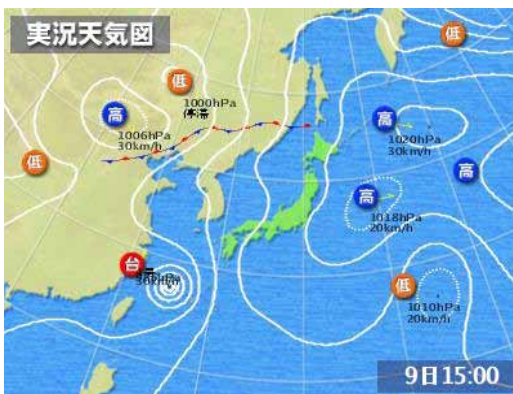
8/7 曇り時々晴れ

太平洋高気圧に覆われ、晴天となる。
出発時は肌寒かったが、風が無くザックを担いでの登りは歩き出すとしばらくして汗ばんでくる。だが休憩に入ると汗は引いて自然のクーラーが心地よい。



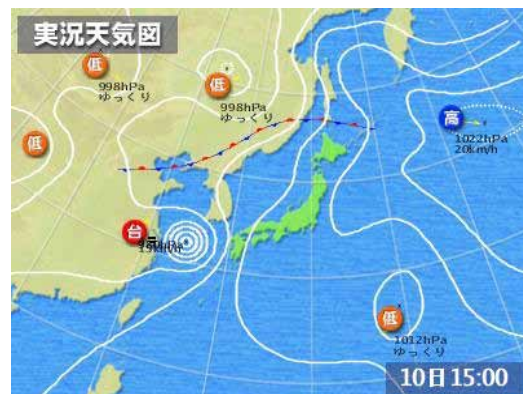
8/8 曇

南から湿った空気が流れ込む為、全般に雲が多くなる。
曇り空の中で日差しが無く、歩くには丁度良い天気となる。



8/9 晴れのち曇り

気圧の谷が朝鮮半島から日本海に近づく影響で南から湿った空気が流れ込む為、雲が多くなる。
夜間に雨が降っていたが朝方には止み、出発時は晴れてきた。視界も良く槍ヶ岳を見ながらの行動が出来た。



8/10 晴れのち曇り、のち雨

引き続き南から湿った空気が流れ込む為、雲が多く不安定な天気となる。
前夜は星が良く見えて朝方も快晴の中を出発、槍沢大曲りを過ぎ横尾付近から曇りとなり、上高地に到着する直前に雨が降り出してきた。

感想

4日間歩くのは初めてで、完歩できてよかった。槍ヶ岳に登頂でき、とても嬉しいです。食事・交通手段など、いろんな役割をこなしてくれたメンバーに感謝します。(天野)

初めての合宿が槍ヶ岳を含めた北アルプスの縦走という、登山をする者としては最も魅力的な山行の一つで迷わず申し込みました。その後、調べると登山初日の合戦尾根は北アルプス三大急登の一つということが分かり、登り切れるだろうか、まだ合宿に参加するには早かったのではないかと不安を抱えながらの山行でした。実際、合戦尾根の終盤では一歩踏み出すのも苦しい状態でした。しかし、みなさんの支援のもと全行程を走破することができ、大満足の山行でした。特に槍ヶ岳登頂では亀山さんに登り方の指導を受け、難なく登頂できたことがうれしかったです。今回の山行で一番印象的なのは、西岳のテン場のテント前でみんなで座って眺めた槍ヶ岳で、贅沢な時間を過ごせたことです。(沼崎)